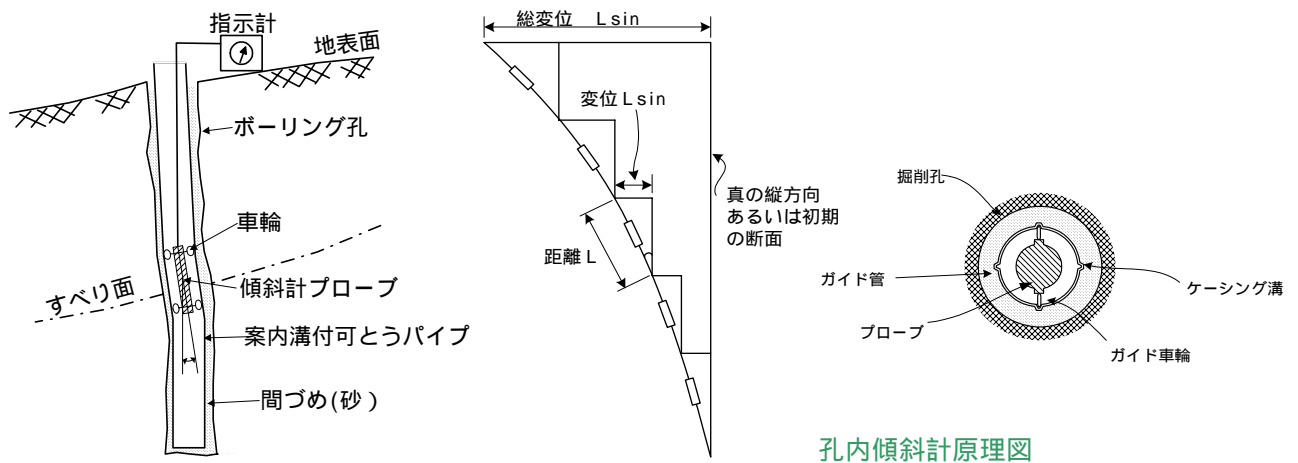


地すべり観測



孔内傾斜計観測は、すべり面位置の把握やすべり面変位量を計測する目的で実施されます。変位の測定原理は、傾斜センサーを内蔵したプローブをボーリング孔に挿入固定された専用ガイドパイプ内に挿入して、連続的に地すべり移動によるガイドパイプのたわみを測定します。傾斜計のタイプには、挿入式と固定式とがありますが、経済性の面から挿入式傾斜計が広く用いられています。



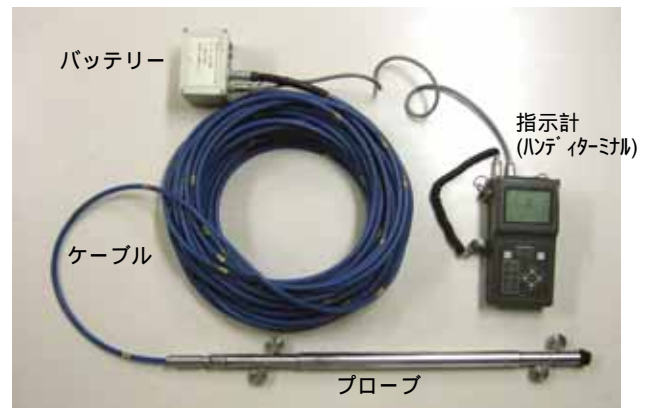
孔内傾斜計原理図

作業工程

アルミケーシングの案内溝に沿って、傾斜センサーを内蔵したプローブを挿入し、孔底まで降ろす。
 プローブ内のセンサーが温度的に安定するまで放置し、安定した状態になったのちプローブを正確に50cm毎に引き上げ測定する。
 孔口までの測定が終了後、機器の固有誤差を相殺するためプローブを引抜き180°回転させて再度孔底まで降ろす。
 センサー安定後、前述と同様に50cm毎に引き上げながら測定する。



孔内傾斜計観測状況



孔内傾斜計観測機器



株式会社 愛媛建設コンサルタント

エネルギー・人・チャレンジ

〒790-0036 松山市小栗7丁目11番18号

問合せ先：地質第一部 久保田 浩司

E-mail ekc@ekcwing.co.jp

TEL (089)947-1011

FAX (089)941-8606